2019 年度滋賀県臨床検査精度管理(輸血部門)実施要項

1. 実施項目 ABO、RhD 血液型検査、交差適合試験、試験管法による凝集反応の判定
2. 試料配付日 2019 年 8 月 5 日 (月)
3. 報告締切日 2019 年 8 月 16 日 (金)

※ 期限以降も回答入力が可能ですが、評価には反映されません。

4. 送付内容	ドライスタディ問題	1 部
	ドライスタディ返送用封筒	1 枚
	検査試料	試料 1～5 赤血球浮遊液と血漿
		試料 6 赤血球浮遊液のみ
		試料 7～9 血漿のみ

5. 報告書記入、結果報告

今年度から JAMT システムを利用した WEB 報告とさせていただきます。JAMT-QC でのシステム不具合により回答入力困難になった場合は、滋賀県臨床検査技師会ホームページにアクセスして実施要項・回答ファイルを参照していただき、メールで報告して下さい。

1) JAMT-QCでのサーベイ結果報告

日本臨床衛生検査技師会のHPにアクセスし、「臨床検査精度管理調査内」の「JAMTQC参加施設向けシステム」より、施設番号・パスワードを入力してログインして下さい。検査分野より“輸血”を選択し、それぞれの項目について各測定結果、回答、必要事項等を入力して下さい。入力後は必ず「保存して閉じる」もしくは「保存して次の項目へ」・「保存して前の項目へ」をクリックして下さい。

2) JAMT-QCでのシステム不具合により回答入力困難になった場合の結果報告方法

滋賀県臨床検査技師会 HP にアクセスし、「2019 年度滋賀県検査精度管理ページ」より、輸血部会の報告用エクセルファイルをダウンロードし、メールに添付の上、ご報告お願い致します。メールの送付先は：メールアドレス：(滋賀医科大学医学部附属病院検査部 山下朋子宛 yamat010@belle.shiga-med.ac.jp) で、件名は「2019 年度滋賀県精度管理輸血部会報告書」として下さい。

6. 注意事項

- 1) はじめに、次ページの「実施についての注意事項」を確認して下さい。
- 2) ドライスタディの回答を E メールにて送付される場合は、問題用紙を全て送信してください。なお、スキャナーを使用される際には、文字が判読可能な濃さで読み込んで下さい。
- 3) 事前に連絡がなく締め切りを過ぎた場合は評価を行いませんのでご注意下さい。

7. 問い合わせ先

〒520-2192 大津市瀬田月輪町

滋賀医科大学医学部附属病院 検査部 山下朋子

TEL 077-548-2610

E-Mail yamat010@belle.shiga-med.ac.jp

*****実施についての注意事項*****

1. 試料について

送付試料は、血球 1、2、3、4、5、6 および血漿 1、2、3、4、5、7、8、9 です。

血球試料は、1～5 は適切な血球濃度に調製して使用し、溶血が見られる場合は生理食塩液などで洗浄してから使用して下さい。血球 6 は、洗浄等を行わずそのまま使用して下さい。

血漿試料は検査前に性状を確認し、浮遊物がある場合は遠心してから使用して下さい。

試料の再配付は行っていません。試料量を確認のうえ検査を実施して下さい。

試験管法による凝集反応の判定は、試料到着日から 8 月 11 日までに検査を実施して下さい。

試料は、8 月末までは冷蔵保管をお願いします。また、不測の事態に備え、結果は必ず保存しておいて下さい。

2. ABO、RhD 血液型検査

試料 1、2 について血液型検査を実施して下さい。

なお検査は、**赤血球型検査（赤血球系検査）ガイドラインに基づき実施してください。**

3. 交差適合試験

受血者（試料 3）、供血者（試料 4、5）の交差適合試験を実施して下さい。

交差適合試験の一部を省略する場合は、省略するために必要な検査の結果を回答して下さい。追加検査を実施した場合はその結果を入力して下さい。なお追加検査の回答は任意ですが、交差適合試験の省略に必要な検査結果は実施の有無も評価対象になります。

4. 試験管法による凝集反応の判定

到着日から 8 月 11 日までに実施して下さい。

試料 7、8、9 の血漿と試料 6 の血球を用いて、間接抗グロブリン試験で凝集の有無および強さを判定します。**試料 6 の血球は洗浄せずそのまま使用してください。**以下の手順に従って検査を実施して下さい。

<検査手順>

- 1) 試験管を3本用意する。
- 2) それぞれの試験管に試料7、8、9の血漿を各々2滴入れる。
- 3) すべての試験管に試料6の赤血球浮遊液を1滴ずつ入れる。
- 4) よく混和後、37℃で1時間加温する。（注1）
- 5) 生理食塩液で3回以上洗浄 900～1000G（3400rpm）1～2分（注2）
- 6) 各試験管に抗グロブリン試薬を2滴ずつ加える。
- 7) 遠心する。（900～1000G（3400rpm）/15秒または100～125G（1000rpm）/1分）
- 8) 凝集の有無および強さを判定する。

<注意>

- 注1. 37℃で1時間加温の際には、アルブミン、LISS、PEG等の反応増強剤は使用しないで下さい。
- 注2. 最終洗浄の生理食塩液は完全に除いて下さい。

以上